

平成22年7月1日

第76号

関東の森林から



関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL 027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



吾妻山（^{いっさいきょうやま}一切経山）南面からの白い噴気（福島県福島市）
（撮影者：会津森林管理署 芳賀 哲二）

小笠原諸島の世界自然遺産登録に向けて

計画部長 石澤 尚史

私と国有林 「激動の昭和」

東白製材協同組合理事長 吉村 昭氏

小笠原諸島の世界自然遺産登録に向けて

計画部長 石澤 尚史

2010年1月、ユネスコに世界自然遺産登録に向け推薦書を提出した小笠原諸島について、7月2日から15日にかけて、国際自然保護連合（IUCN）による現地調査が行われます。

世界自然遺産として推薦した地域の中心となっているのは、関東森林管理局で設定した小笠原諸島森林生態系保護地域です。

その内容と保全・管理の取り組みをご紹介します。



ボニンブルー（母島小富士から見た南崎の海）

小笠原諸島に生息する固有種の一部



シマホルトノキ



小笠原にしか生息していない
アカガシラカラハト
（絶滅危惧IA類、国の天然記念物）

人なつこいメグロ
（絶滅危惧IB類、特別天然記念物）

森林生態系保護地域と順応的な管理

小笠原森林生態系保護地域は、小笠原諸島に存在する国有林の84%にあたる5,580haを設定しており、このうち5,167haが世界遺産推薦区域となっています。いままで一

度も大陸と地続きになったことがない海洋島である小笠原諸島の森林生態系の特徴は、南太平洋や東南アジア等からたどり着いた植物や動物が、競争相手が少ない中で、それぞれ進化してきた結果、小笠原だけに生息する固有種の割合が極めて高くなり、特異の生態系となっています。

そのため、この生態系は環境の変化や人間のインパクトに弱く、保全管理については極めて細心の注意を払い、モニタリングを行いながら順応的に取り組んでいくことが求められています。

森林生態系保護地域の利用ルール

小笠原諸島に人が定住して以来、生活のため意図的、非意図的に外来種が持ち込まれ、小笠原諸島本来の森林生態系が徐々に劣化してきています。これらの外来種の駆除は大きな課題となっています。

森林生態系へのインパクトを軽減し、利用と保護の調整を図るための対応として、森林内へ入る場合は、指定した31ルートに限定し、特別な講習を受けたガイド等の同行を求める利用ルールを住民等の理解と協力を得て、関係各機関と連携しながら、2008年から導入しました。

原生的な森林生態系回復への取組

外来種（動植物）の駆除については、外来種と固有種が直接的・間接

外来植物の駆除



アカギ

（過去に薪炭用として移入したアカギ、モクマオウ等は固有植生に対する大きな脅威となっています。）

アカギの薬剤駆除



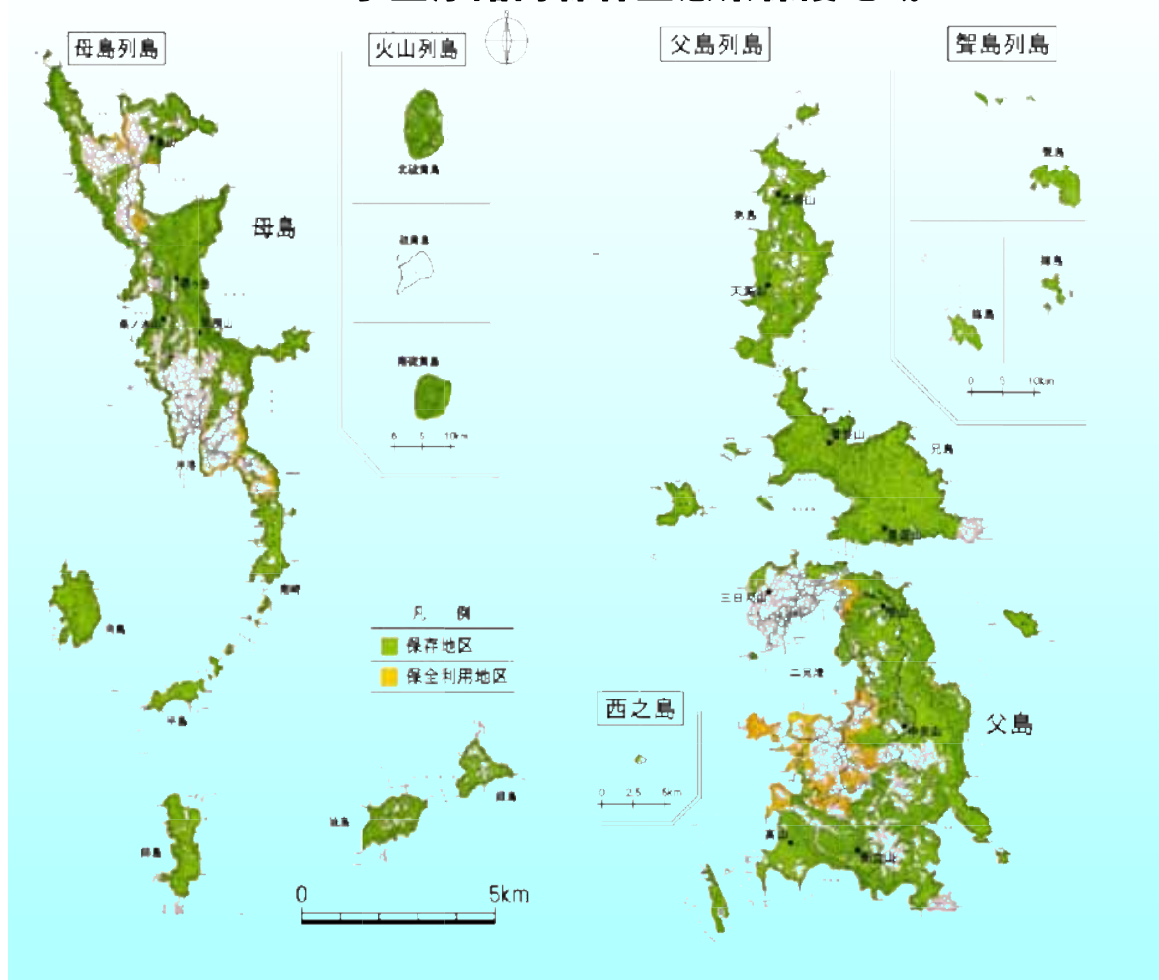
モクマオウの駆除作業

的に複雑な種間相互作用があることから、駆除に当たっては慎重に進めています。

本局が主導的に実施しているアカギやモクマオウの外来植物の駆除は、2002年からこれまで約160haの面積に達しています。

今後とも森林利用や外来種駆除の結果を観察・分析し、取り組みを続けていく考えです。

小笠原諸島森林生態系保護地域



小笠原生態系保護の取組

関連ホームページ

小笠原諸島生態系保護の取組については、次のURLによりご覧いただけます。

関東森林管理局

<http://www.rinya.naff.go.jp/kanto/policy/business/ogasawara.html>

関東森林管理局 東京事務所

<http://www.rinya.naff.go.jp/kanto/tokyo/index.html>

参加者募集

夏休み「子ども樹木博士」と木工体験
木の名前を
おぼえてみませんか

親子で樹木博士に参加して、高尾山の自然や樹木に興味をもとう！
木工にチャレンジしよう！



実施日 平成22年8月20日(金)
場所 所八王子市高尾山国有林
(日影沢キャンプ場・いろはの森ほか)

募集人員 小学生以上の親子50名
(応募者多数の場合抽選)

申込方法 往復葉書の往信面に、イベント名、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)④年令(学年)⑤電話番号、返信面にお申込者の宛名をご記入のうえ、当センター「子ども樹木博士」係までご応募ください。

申込締切 平成22年8月5日(木) 必着
参加費 1,000円(大人・子ども1人当たり)
お申し込み・お問い合わせ先
高尾森林センター

〒193-0844 八王子市高尾町2438-1
電話番号 (042) 663-6689
<http://www.rinya.naff.go.jp/kanto/takao/>

第6回「秩父山地緑の回廊等」における
樹木保護ネット設置

秩父山地は景観に優れ貴重な野生動物植物が生息する豊かな森林生態系を維持しています。

近年、シカ等による立木の食害が拡大してきていることから、その対策として、立木を保護するネット設置等のボランティアを募集します。



実施日 平成22年8月8日(日)

場所 (午前5時30分～午後6時)
笠取山周辺
(埼玉県秩父市大滝)

集合場所 秩父市役所

実施内容 シカ等の食害から保護する
ネットの運搬・設置

募集人員 先着26名

募集期間 平成22年7月16日(金) から
平成22年7月30日(金)

お申し込み・お問い合わせ先
埼玉森林管理事務所

〒368-0005 埼玉県秩父市大野原491-1
電話番号 (0494) 23-1260

担当者 北野・風祭までお電話により
お申し込みください。



先生の炭焼き体験

八王子市立上川口小学校から、「子どもたちの炭焼き体験を私たち教職員にも」との依頼を受け、5月7日に体験学習会を行いました。学習会には7名の参加があり、炭焼きの原理や作成過程（煙突の立て方・炭材の並べ方、火付け・温度管理・煙の変化、窯出し等）での注意事項を説明し、先生方からは、とても参考になりましたとの好評をいただきました。

先生の炭焼き体験



森林の市



和紙を使って草木染め

5月8日・9日の両日、日比谷公園において「森林の市」が開催され、高尾森林センターでは「和紙の草木染め」を行いました。

制作の工程は、和紙を折って染め液につけ、媒染液を塗るという簡単なものですが、参加者からは「綺麗に折れない」「染め液につけすぎた!」などの声があり、心配しながらの作業となりましたが、媒染液をつけた瞬間「アラ、きれい!」と感嘆の声が上がり、その表情の変化がとても微笑ましいイベントとなりました。

春の花観察と花のスケッチング
(公募イベント)

5月15日にウッディハウス愛林で展示していただいている野草画グループ

プの方を講師にお願いし、春の花観察と花のスケッチングを行いました。当日は、17名の参加があり、ウッディハウス愛林で野草画のレッスンを受けた後、日影沢を歩きながら思い思いの野草を描いていきました。参加者の皆さんには十分楽しんでいただけたようです。



春の花観察と花のスケッチ

森林カレッジ (公募イベント)

森林カレッジは、ボランティア活動のリーダー育成を目的に会員を募集し、年4回の講座と体験を行うイベントです。

第1回目は、5月29日(土)に林野庁計画課長の講座と除伐体験を行います。受講生20名と林野庁・署からの聴講生6名の参加がありました。

森林カレッジへ参加される方は、林業に対する関心が高いので、当セ

ンターとして大事にしたいイベントの一つです。

6月は、森林教室で小学校1校(84名)と高等学校1校(99名)、クラフト体験で1団体からの依頼があります。

参加される皆さんが、大いに学び、楽しんでいただけるように努めていきたいと考えています。

(高尾森林センター)

ウッディハウス愛林の
展示物等のお知らせ

ウッディハウス愛林では写真・絵画・クラフトなどの展示を行っています。平成22年度の特別展示につきましては、こちらをご覧ください。

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/takao/hall/tokubetuten.html>



林野庁計画課長の講座



国有林野事業見学会参加者の皆さん

関東森林管理局指導普及課は、恒例となっている国有林野事業見学会を6月18日（金）に実施しました。この見学会は、広く一般の方々に国有林野事業で取り組んでいる様々な事業の内容などを理解していただくことを目的として、参加者を公募により募集し、毎年2回実施しています。

平成22年度国有林野事業見学会を開催 中越地震による山地災害復旧現場見学

法枠工などの工事が行われている
「貫（つなぎ）地区」の現場

今年度、第1回目の事業見学会は、平成16年10月23日に新潟県川口町を震源として発生したマグニチュード6.8の中越地震により、大きな被害を受けた山古志村（現長岡市）と小千谷市において、中越森林管理署が実施している「中越地区直轄地すべり防止事業」の工事現場などを訪れました。

この事業は、中越地震による被災地の早期復旧を図るため、新潟県からの要請を受け、平成17年度から平成26年度までの10年間の工期で、総工事費は約162億円の計画で事業を進めています。



水没した木簀（こごも）集落の様子

見学会で訪れた箇所は、工事開始から5年を経過し、順調に工事が進捗している長岡市濁沢町の「貫（つなぎ）地区」や、平成19年度に工事が完成した小千谷市小栗山の「呼坂（よびさか）地区」で、国有林が実施してきた工事の概要を現地で詳しく説明したほか、「樫ノ木（ならのき）地区」、「浦ノ山（うらのやま）地区」などをバスの車窓から遠望し、それぞれの工事について説明を行いました。

また、地すべり防止工事現場のほか、水没した状況が今でも見られる木簀（こごも）集落や地震によって埋まった車両の中から、男の子が奇跡的に救出された妙見（みょうけん）の現場などを見学したことから、参加者の皆さんは中越地震の恐ろしさ、被害の大きさを改めて現地で実感されていました。

今回の事業見学会は、地すべり現場において各種工法や技術的な解説など、専門的な説明が主となるため、説明にあたっては一般の方々にも理解しやすいように、治山の専門用語を可能な限り使用しないことや専門用語を使用する場合には、分かりやすく用語の解説を併せて行うことなどに特に配慮して実施しました。その結果、参加者の皆さんから「とても分かりやすい説明で、地すべり工事のことが勉強できた。」「地震当時の状況や復旧に当たった工事の様子を理解できた。」などの意見をいただきました。

今後も国有林野事業の取り組みを広く一般の方々に理解していただくため、この見学会を始め様々な機会を捉えPRに取り組んで参ります。



工事概要の説明を熱心に聞く参加者の皆さん



執筆者：東白製材協同組合理事長 吉村昭氏
(平成21年秋の叙勲で旭日双光章受章)

私は現在、東白製材協同組合の理事長の職に付いておりますが、私の家業が製材業でありましたので、近隣の営林署は、製材用の丸太や立木を購入する最も大きな仕入先であり、原木の50割は国有林材で賄う経営でありました。この様な関係で特に昭和30年以後の激動の頃の思い出について綴ってみます。

私と国有林 激動の昭和

東白製材協同組合 理事長 吉村 昭



昭和30年代の丸太の積み込み

なりました。この頃の製材工場にはフォークリフトもなく、すべて人力で挽場まで丸太を担ぎ込むと云う近代化の遅れた工場ばかりで、旺盛な需要に到底対応が出来る状態ではありませんでしたが、商売そのものは活気がありました。需要はあるが、物が足りない、こんな状況が何年も続いて深刻な住宅不足の状況が発生した時代でした。昭和36年には池田内閣が誕生し、所得倍增政策を掲げ、経済規模の拡大を推し進めた偽、所得の伸びと並行して住宅建築も盛んとなり、木材は益々不足、諸物価の

中で木材が最も高騰し、一般卸売物価の上昇の主役であると云われました。

このような状況から、木材の高騰を抑制するため、農林大臣は国有林に対して、2年間にわたり、それぞれ400万立方メートルの大増伐を命じる一方、民間の林家に対しては税制を伴う販売促進を促し、製材業者には緊急出荷が要請され、この時東白川郡の業界でも大型トラック(6トン車)13台に製材品を満載し、木材緊急輸送と大書した垂幕を張り、隊列を整えて、都心部を通り、池袋の木材市場まで示威行進をして下さいとの命令でありました。私はその時の輸送指揮を命じられ、無事責任を果たしたと云う思い出があります。勿論、この時の丸太は、国有林より随意契約により割り当てられたものでありました。後になって聞かされた話ですが、緊急輸送や示威行進は、「東京の人々に木材は充分あります」と云うことを見せるために全国的に行った行動であったと云われ、苦笑したことがあります。

この様な動きと並行して政府は、木材不足を補うため、外材の輸入を本格的に商社に働きかけ、前年比で4倍、6倍もの大量の輸入を許可し、外材は国内需要の51割にも増大して需要超過型の材価高騰抑制に努め、徐々に効果があり鎮静に向かったが、金融の大巾な緩和や住宅需要の高ま

り(着工数、昭和47年182万戸、48年191万戸)により、昭和47、48年には再び材価が高騰し、業界は歓迎ムードでありましたが、昭和49年の第一次石油ショックに伴う諸物価の高騰抑制政策が堅持され、成長率もマイナス成長となり、製材業は不況業種の指定を受ける厳しい局面に突入し、翌翌年の原木高の状態が、現在も続いており、業界に於いても頭痛の種子となっております。

私は50年以上もこの商売を続けておりますが、この間、価格の上げ下げ、原材料の安定的確保等には神経が悩まされてきました。これから、国産材の時代を迎えようとしている中、国有林には、価格の変動が激しい商品である木材を地域内の出材状況や市況を検討されて、多寡を見極めて頂き、木材流通の中にあつてダメージな役割も担ってほしいと望んでおります。



公売が行われる貯木場

森づくり最前線

吾妻森林管理署 三原森林事務所 森林官 藤原 智史

私が勤務している三原森林事務所は、群馬県の北西部、嬭恋村に位置し、浅間山、四阿山、草津白根山などに囲まれた約7,000[㍔]の国有林を管理しています。

嬭恋村には数多くの温泉やスキー場があり、夏場は避暑地として、冬場はウィンタースポーツなどで賑わっています。また、夏秋のキャベツの生産量が日本一ということでも有名であり、山地を背景にした広大なキャベツ畑は一見の価値があります。



一面のキャベツ畑と浅間山



特徴的な樹形のカラマツ“仁王松”

「嬭恋」の由来は「ヤマトタケルノミコト」が愛する妻の「オトタチバナヒメ」を想い「ああ・・・あづまはやと、妻恋し」と叫んだことから吾妻、妻恋となったと今に伝えられています。そのことから、嬭恋村では愛妻家の発信基地として、「キャベツ畑の中心で愛を叫ぶ（キャベチュー）」などのユニークなイベントが開催されています。平成23年7月からは、JRと群馬県の共同で実施される一大観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン」に向けて村内の整備も進んでおり、今年で3回目を迎える「嬭恋高原キャベツマラソン」の参加者数や盛り上がりも急上昇を見えています。

管内の国有林の大部分は標高1,000[㍔]以上に位置しており、人工林の多くはカラマツが植栽されています。見所としては標高1,800[㍔]に位置する万座温泉と、そこに向かう万座ハイウェイ沿線が挙げられ、標高とともに変化する植生や景色の変化を、四季を通じて楽しむことができます。特に『万座天然カラマツ植物群落保護林（通称：カラマツ母樹林）』は植物の持つ生命のエネルギーを感じます。昭和50年代頃まではその名前のとおり、カラマツの種の採取が行われており、旧草津営林署管内に留まらず優良な種子の供給源となっていました。現在は採種も行われなくなり、夏場は背丈程のササに覆われているため歩くのも困難ですが、積雪期にはスノーシューを用いたスノートレッキングなども催されており、昔とは違ったかたちで地元や観光客の方々に親しまれています。是非一度訪れて頂きたいと思います。

その母樹林の子どもの世代にあたるカラマツも、次々と間伐が必要な時期を迎えています。そこで、これからの森林整備に当たっての間伐方法と低コスト路網を組み合わせた現地検討会を行い、この検討結果を活かした事業の発注を行っています。また、地域の皆さんとの関わりも多く公私共に充実しています。

森林官としての勤務も2年目になりました。山仕事にしても事務仕事にしてもまだまだ経験不足感是否めませんが、それを補えるよう、今後も山にたくさんの足跡を残すと共に、資料の整理やデータの蓄積を常に意識して業務を進め、更に、よりよい形で開かれた国有林を次の森林官、次の世代に引き継いでいきたいと考えています。



カラマツの母樹（樹高27m！）

あづまやま 管内の百名山「吾妻山」



土湯トンネル付近から望む吾妻山連峰

吾妻山は、福島と山形の両県境に連なる西側の最高峰西吾妻山（標高2,035^{メートル}）、中央部の東大巔（標高1,928^{メートル}）東側の家形山（標高1,877^{メートル}）等と浄土平（標高1,580^{メートル}）を囲むように連なる東吾妻山（標高1,975^{メートル}）、吾妻小富士（標高1,705^{メートル}）、一切経山（標高1,949^{メートル}）の総称と呼ばれています。

また、吾妻山は標高2,000^{メートル}級の火山が連なる山脈であり、なかでも一切経山は1977年に小規模な噴火を起こしており、2008年には南面大穴火口付近から噴気が確認され、現在も続いています。

吾妻山は、亜高山地帯に属し、アオモリトドマツをはじめコメツガ、シラベ、ブナ、ダケカンバなどの原生的な天然林が形成され、ここを北限や南限とする植物が分布しています。また、それらの天然林を保存し、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究等に役立てるために、この周辺の国有林12,000^{ヘクタール}を吾妻山周辺森林生態系保護地域に指定し、関東森林管理局（会津、福島森林管理署）と東北森林管理局で管理しています。



吾妻小富士から望む一切経山周辺

吾妻山は、我が国で3番目に大きな磐梯朝日国立公園の一角をなし、特に、浄土平周辺は、磐梯吾妻スカイラインによりアクセスが容易であることから、澄んだ空気や四季折々の美しい景観を求めてハイカーや登山者が訪れます。

会津森林管理署は、貴重な自然を後世に伝えるため、野生動植物の生息環境への配慮など、調整を図りながら適切に森林の維持管理を行うこととしています。



浄土平から一切経山に登る途中、吾妻小富士を望む

（会津森林管理署広報広聴連絡官）

参加者募集

夏休み親子DAYキャンプ

高尾山の森で、親子一緒に夏休みの思い出を残しませんか



実施日 平成22年8月6日(金)
場所 八王子市高尾山国有林

募集人員 小学生以上の親子80名
（応募者多数の場合抽選）

申込方法 往復葉書の往信面に、イベント名、参加者全員の①郵便番号②住所

③氏名（ふりがな）④年令（学年）⑤電話番号、返信面にお申込者の宛名を（記入のうえ、当センター「DAYキャンプ」係まで）応募ください。

申込締切 平成22年7月15日（木） 必着

参加費 1,000円（大人・子ども1人当たり）

お申し込み・お問い合わせ先

高尾森林センター

〒193-0844 八王子市高尾町2438-1

電話番号 (042) 663-6689

http://www.rinyaff.go.jp/kanto/takeo/

発行所 関東森林管理局
編集 総務課

TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159